

令和4年度中種子町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

中種子町は、鹿児島市から南へ約119kmの洋上にある種子島の中央に位置し、北は西之表市、南は南種子町に隣接している。南北22km東西7kmであり、地勢は一般に穏やかな平陵地で北部に山林地帯が多く、中央から南部にかけて比較的平坦な耕地が多い。

総面積13,778haで、水田314ha、畑2,047ha、樹園地35haの合計2,396haの耕地面積であり、平均気温19.5℃の温暖な気候を利用し、さとうきび、甘しょ、水稻を中心とした農業が展開されている。

水田農業については、7月いっぱいを超早場米の産地として主食用米生産を中心に行われている。早期水稻以外の作付作物については、さとうきびが最も多く、澱粉原料用甘しょ、WCS用稲、飼料作物の順になっている。

本町の水田の特徴として、全体的に湿田が多く、圃場も小さく小団地が多いため、水田活用作物の作付には不利な条件下にある。そのため自己保全管理、調整水田等不作付地が大半を占め、土地利用率は低い状況にある。

主食用米販売農家と自給的農家の割合は概ね4：6であり、農家1戸あたりの水稻経営面積は平均44aである。近年、主食用米の需要の減少が続く中、消費者重視・市場重視の考え方に即応した米づくりを推進する中で、出荷・販売体制を確立し、生産性と品質の向上、安心、安全で良食味の売れる米づくりを目指しながら生産コスト削減、集団指導による栽培技術の向上と栽培履歴の記帳及び適期一斉防除の推進に努めなければならない。水田活用においては、さとうきび・澱粉原料用甘しょの輪作体系による単収の向上、非主食米及び飼料作物の作付けを推進し、水田の有効活用を図っていく必要がある。

そのような中で、農家は高齢化や後継者の問題に直面し、今後担い手の利用集積、土地利用率の向上等への問題も多く抱えている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

主食用米の需要減少分として、高収益作物への移行を推進し、農地の集積・集約化の方針及び作付けの団地化の取組方針など、効率的な農業体系、低コスト化を図りながら現況作付面積の維持・拡大を目指す。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

高齢化や後継者不足等により水田の活用が困難であることから、水田のまま比較的作付けしやすいWCS用稲や飼料作物を水田として活用する。また、排水条件の良い水田へは野菜類や花卉、果樹などの高収益作物や省力的な管理が可能な作物の作付けを推進する。

畑作物のみを継続して栽培している水稻作が見込まれないほ場については、点検し農家への調査を行ったうえで、畑地化への推進を図る。

野菜などについては、連作による収量低下が課題である。そこで、水稻と野菜などとの輪作体系の確立のため、地域でのブロックローテーションの構築について検討していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要に応じた生産を基本としつつ、超早場米の産地としての出荷・販売体制を確立し生産性と品質の向上、安心・安全で良食味の売れる米生産を目指しながら、現況作付面積の維持を図る。

(2) 備蓄米

取組予定なし

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

R4年産は取り組み予定無し。

今後は多収品種の種子確保の体系等を確立したうえで、関係機関と連携・協議を行いながらR5年産以降取り組みに向けての推進を図る。

イ WCS用稲

WCS用稲を飼料作物の中心に位置付け、産地交付金を活用し、さとうきび・澱粉原料用甘しょの輪作体系による単収向上及び生産拡大を目指す。

(4) 麦、大豆、飼料作物

戦略作物として、今後通年栽培を行うことで生産性の高い畜産経営に努め、経営コストの削減と併せて、飼料作物の作付面積の維持・拡大を図る。

(5) 高収益作物

青果用甘しょ、野菜類、花卉類、果樹類を高収益作物と位置付け、産地交付金を活用し、現況作付面積の維持及び生産拡大を目指す。

(6) 地力増進作物

地域では、園芸作物などの高収益作物の収量向上に向けた土づくりが課題となっている。地力増進作物のすき込みによる土づくりの推進について今後検討していく。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和5年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	233.8		224		214	
備蓄米						
飼料用米						
米粉用米						
新市場開拓用米						
WCS用稲	26.56		28.89		30	
加工用米						
麦						
大豆						
飼料作物	21.54	4.9	19.7	7.0	22.0	7.0
・子実用とうもろこし						
そば						
なたね						
地力増進作物						
高収益作物	2.49		5.0		6.0	
・野菜	1.86		4.0		4.5	
・花き・花木	0.42		0.8		1.0	
・果樹	0.06		0.2		0.3	
・その他の高収益作物	0.15		0.0		0.2	
その他						
・地域重点作物	33.23		32.86		34.0	
畑地化					1	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	WCS用稲	WCS用稲 生産性向上加算 （基幹）	生産量	（令和2年度）2,260kg/10a （令和3年度）2,300kg/10a	（令和4年度）2,400kg/10a （令和5年度）2,400kg/10a
2	飼料作物	飼料作物二毛作加算 （二毛作）	作付面積	（令和2年度）4.9ha （令和3年度）4.8ha	（令和4年度）7.0ha （令和5年度）7.0ha
			飼料自給率	（令和2年度）2.9% （令和3年度）2.8%	（令和4年度）4.5% （令和5年度）4.5%
3	高収益作物 （野菜・花卉類・果樹類）	高収益作物加算 （基幹）	作付面積	（令和2年度）3.7ha （令和3年度）2.49ha	（令和4年度）5.0ha （令和5年度）6.0ha
4	地域重点作物 （さとうきび・澱粉原料用 甘藷）	地域重点作物助成 （基幹）	生産量 （さとうきび）	（令和2年度）6,150kg/10a （令和3年度）7,263kg/10a	（令和4年度）7,300kg/10a （令和5年度）7,300kg/10a
			生産量 （澱粉原料用甘藷）	（令和2年度）2,025kg/10a （令和3年度）2,592kg/10a	（令和4年度）2,625kg/10a （令和5年度）2,625kg/10a

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名： 鹿児島県

協議会名： 中種子町農業再生協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	WCS用稲生産性向上加算(基幹)	1	2,000	WCS用稲	生産性向上の取組面積に応じて支援。
2	飼料作物二毛作加算(二毛作)	2	15,000	飼料作物	取組面積に応じて支援。ただし、飼料作物の二毛作に限る。
3	高収益作物加算(基幹)	1	13,600	野菜類, 花卉類, 果樹類	取組面積に応じて支援。
4	地域重点作物助成(基幹)	1	14,300	さとうきび・澱粉原料用甘藷	取組面積に応じて支援。一元化集荷等に取り組むこと